

ベトサダ ニュース

代表より挨拶

北国の夏がやってきました。
北海道の方が建築とかの現場の内地にいきますと、身体が対応しないそうです。暑い、暑いと言っても涼しくなるわけではありません。

札幌では**貧困ビジネス**と表面にみえませんが、**多くの若者、働き盛りの方がとりこまれていきます。**

仕事を首になり、転々と仕事を变える人がいます。

嫌なこと、ムカつくことがつづく、気持ちが悪くちやくちやになる、**なんとか助けてほしい**と困り切っているとき、「あれも無理、これもダメ」と言われ、**混乱し追いつめられてしまう、自立支援法も、ざっくりいえば、このような中身で、問題解決の方向を出していないように考えてしまいます。**

人とのつながりが薄れていって、さらに、つながりが少なくなる：ホントウの自立を求めて都会にやってきました：不安定就労の荒野を長い間放浪している：努力しても、成功できない。

ベトサダに来られる方には、傾聴の形式の面談をしています。無関心を体験する生活困窮者の方々は、重苦しい社会を引きずっておられます。

「雇用」の取組を始める方々にベトサダは寄り添っています。これからの社会をどういう風に築いていきたいか、です。**みなさま、応援をありがとうございます。**

代表 眞鍋

支援者の三田村様より

「生きることは食べること」

日々口にしたもののが私たちの血となり肉となる。そして生きるためのエネルギーを生み出す。「栄養のあるものを食べなきゃ」と言われて育ててきた私たち。間違いじゃ無いけれど、**飽食の時代でファッショニ化した食べもの(食卓)に無機質さを感じることはありません。**

27歳の時(27年前)参加した農業研修の最後に、医者である菊池養生園の竹熊先生から「**いのち育む農業**」という言葉いただきました。そう、その食べもの達も生きていた。いのちをつなぐ仕事が農業なのだ。カルチャーショックでした。そんなことを感じる農業・食卓を創り上げたい。それが**私の本当の意味での農業のはじまり**でした。

まずは有機・無農薬に挑戦。でも虫食いだらけや病気に負けて枯れてしまう野菜に挫折も味わいます。市場出荷から顔の見える産直へ転換。そして集大成は食べることに農業の大切さを学ぶ**菜園の開設**でした。由仁ふれあい農業小学校と名付けたそのプログラムは今年で14年目になります。小さなたねをまき、その芽生えに生命力を感じ、土・水・空気・お天道様、そして育てる人々の愛情が加わって豊かな実りがもたらされる事を、**多くの人たちと共有**することができました。

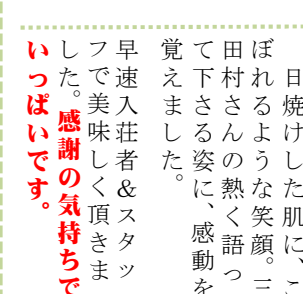
今回寄贈させていただいたお米の名前は「なかくよし」です。実はそんな品種はありません。「さくら397」ほしのゆめ・あやひめ」といった3種類のお米をたねの段階からブレンドして育てた混植栽培です。単品種で美味しいお米が無かった時代、苦肉の策ではじめました。病害虫にも強く、それぞれの品種以上に**美味しいお米**になりました。

「なかくよし」という名前はインターネットで公募して、茨城県の高校生が「**違う品種でも仲良く一緒に育ったので、なかくよし**」と言う名前はどうですか?」と応募してくれました。こんな事からも私の農園は、**いろいろな人たちが集い交流し仲良く学び合える場として歩み続けたい**と思っています。

由仁町 ふれあい体験農園みたむら 三田村 雅人



六月三日、由仁町のみたむら農園さんを訪問させて頂きました。



お忙しい中、農園内を案内して頂き色々なお話を伺う事が出来ました。

日焼けした肌に、こぼれるような笑顔。三田村さんの熱く語って下さる姿に、感動を覚えました。

早速入荘者&スタッフで美味しく頂きました。感謝の気持ちでいっぱいです。

事務局長より

6月27日札幌市西区民センターにて、主催 **特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センター ライフ・共催 共同連北海道ブロック会議の合同研修会**に参加させて頂きました。参加者は、特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフスタッフ・共同連北海道ブロック会議関係者及び利用者で、約80名位の研修会でした。

今回のテーマは「路上生活者支援と生活困窮者自立支援法」ベトサダの活動に学ぶ」で、依頼を受けた内容は、「生活困窮者及びホームレス支援を行っているベトサダの活動について話をしてほしい」という事で、講師として**代表眞鍋と藤原**で参加させて頂きました。

特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センター ライフ・共同連北海道ブロック会議が主催、取り組んでいる「**共生・共働**」路上生活者・生活困窮者支援」というカテゴリーがベトサダと通じるものがある」と云う事で、共に活動を行って行く上で交流を深め、共に取り組んでいき、連携して行こうと云う事で、代表眞鍋がベトサダの始まりから、どんな活動をしているか、考え方、想い、利用者の方、ベトサダを支援して頂いている**会員様、寄付をして頂いている皆様の声、想い、事業実績**、そして平成27年度からスタートした生活困窮者一時支援事業等の話をさせて頂きました。



特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフの活動は <http://npo-life.net> でご覧ください。



ベトサダでも取り組んでいる中間就労も、札幌障害者活動支援センターライフでは工場、農業、カフェ等で行っており、**中間就労の出口問題も含め連携して**

9月にも2日間、北星大学で講習会が有るそうで、9月にも登壇して下さると依頼が有りました。**次回は、道外からも参加者が来られるみたいで、今回よりもっと大きな講習会になるみたいです。いろいろな話が聞けるので勉強になると思っています。**

施設長より

「お疲れ様です。Sです。連絡遅くなりました。『お、元気だったか?』悪いことしてないか(笑)半日前にベトサダを卒業したS君からの、嬉しい電話です。」

S君は四十歳。網走刑務所を出所し札幌に出て来ましたが所持金も底を尽き、**交番に相談に行きベトサダを紹介**されました。

東北出身者らしく朴訥とした話し方と、時折見せる笑顔が印象に残りました。

ベトサダでは入荘者に対し、最初**眞鍋代表の面談を設定**します。ここでは主に、本人の精神面で抱えている問題について深く傾聴し、心の傷みに共感し、これからの課題を導き出します。

次に、実際に生活を共にし支援して行く私たち支援スタッフによるインタビュー面談を行っています。そのS君に対するインタビュー面談を行った時の事です。

四十歳の彼は今迄に「**八回**」服役して来ました。私も多くの刑余者に接して来ましたが「四十歳で八回」には正直、驚きました。

彼の処遇については随分と悩みました。スタッフ会議を何度も行い、所持金も無い事からまずは関連団体の中間的就労に進ませました。引越しや清掃、廃品処分等の軽作業です。

その人柄から職場でも先輩達に可愛がられ、彼にとっても居心地の良い職場のようでした。しかしいつまでも中間的就労の職場に通わせる訳にも行きませぬ。「**自立**」を目指してもらいたいです。

ここで私は迷います。実は彼には、スタッフ見習いとして私たちと寝食を共にしてもらいたいと考えていました。そしてちようど同時期に、懇意にしている派遣会社から九州で求人している話もありました。進むべき二つの道の話をしました。彼が九州行きを選びました。そして私は彼の選択を認めました。



彼の「9回目」だけは絶対に阻止しなければならぬ。果たして私の選択は正しかったのか……

「毎日残業なんです。これなら結構稼げそうです。『忙しいから悪い事する暇はないな(笑)』」
「勘弁して下さいよ(笑)」

今夜辺り、S君に電話してみようかな、と思っています。

のどかな田園風景に触れ心が洗われた施設長

収穫が楽しみです！
小さいベトサダ農園 皆でお世話しています



ベトサダ荘前に咲くラベンダー

おひらせ
七月十日(金) 午後七時三十分 放送予定 NHK (北海道クローズアップ)

ベトサダがテレビで紹介されます。どうぞご覧ください

◆年会費・寄附 ご送金先◆
【ゆうちょ銀行】
口座番号 02720-1-45798
口座名義 特定非営利活動法人 自立支援事業所 ベトサダ

みなさまの 会費・寄附は 自立を目指す若者の **生きる希望**となります